
恋 忍者

鹿星

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

恋 忍者

【Nコード】

N2468D

【作者名】

鹿星

【あらすじ】

このお話は、恋する忍者のお話です 江戸時代に何で学園があるの？ってところは、まあ作者が馬鹿なのでスルーするか、ご自由に想像して下さい（土下座）

ここは和の国。

ここには忍者がいて、

和の国を守り、国、他国、国民からの依頼を受け、日夜活動している……らしい。

その和の国の忍者の1人、

孤帝河 莉奈 は、

忍者の学校、月光学園に通っている。

月光学園とは、まあ私達でいう中学校みたいな感じで考えて下さい。
ちなみに読みは…あ、どうでもいい？ごめん。

「暇だなあー…」

屋上でサボり中の莉奈。（いつもの事だが）

その時、

奴は来た。

「おーす孤帝河！ーサボりかーちゃんと授業でろよー」

「アンタもだろが！ー！ー」

奴とは、猿飛 鋭羽。

莉奈のライバル兼親友（？）兼サボリ仲間である。

莉奈はコイツが好きだったりする。猿飛は金髪のツンツンに赤目という変わった外見。対して莉奈は黒髪黒目のいたって普通の外見である

「…………お前さ…恋人いるのか？」

「は？何よいきなり…………いないにきまってんじゃん！！悪い？」

「いや、別に…じゃあ好みのタイプは？」

「は？なんでアンタに教えなきゃなんないのよ」

「俺のも教えるからさー」

「…………ツンツン」

「マジで？」

猿飛絶句。

「悪い？」

「いや別に！！」

「アンタは？」

「俺は…お」

キンコーンカーンコーン

「……………」

「…次、なんだっけ」

「確か手裏剣の実技」

「サボって早弁しよ」

「あ、俺もそうしよ」

ばくばくばくばく

「アンタよく食べるな」

「おう！！腹が減っては戦は出来ぬっていうだろ？」

「……………」

2人で仲良く早弁してます。
まだ2時間目だよ…

帰り道。

「はーあ、今日もさぼったさぼった!!」

莉奈が屋根の上を軽々と渡っていると、

「さ、猿飛君の事がスキです!付き合ってくださいませんか?」

「(嘘…あああああ愛の告白?!あいつ結構モテるんだ……よーし、盗み聞きタイム!!)」

莉奈は2人の近くに行った。

「…………ごめん。お前とは付き合えねえ」

「そんな…好きな人でもいるんですか?!」

「…………ああ」

「(あ……………そう…なんだ……………ちょっとでも期待したアタシが馬鹿だった……………アタシ…なんかじゃ…ない…だろな……………)」

「

莉奈の頬に涙が伝う。

パーン

「猿飛君の馬鹿!!」

女の子は泣きながら走っていった。

「(あ…ほっぺ叩かれてる…)」

「痛ッ……………」

「(……………」

莉奈は涙を手でぬぐった。

「猿飛……………!!」

「?!孤帝河!」

「お前、さっき女の子振ってほっぺ叩かれてただろ!!めっちゃ腫

れてるぞ！冷やしとけよな！！」

「…………お前…泣いてたのか？」

「は！？んなわけないじゃん…………」

「…………そつか。よし、一緒帰ろーぜ！」

「い、いいけど…」

「なあ、お前のこと名前で呼んでいいか？」

「？…いいけど」

「なら、莉奈！！俺も名前で呼んでくれな！」

「…うん」

こんな会話がいつまで続くのか、それを考えるとまた涙が溢れてきた。

「！？お前…泣いて…」

「う…………」

「とりあえずこっちはいい！」

猿飛は莉奈をぐいと引っ張ると近くの森へ

2人は森の奥にある岩に腰掛けた。

「ぐす…ぐす…」

「…………お前さ」

「…………？」

「…俺の事…好きか？」

「?!え…!?!」

「俺は…………お前が…」

好きだ」

「え…………？」

「迷惑かもしれないけど……」

「…………じゃない」

「え……………」

「あたしも…鋭羽の事がスキだから……迷惑なんかじゃない」

ぎゅ

「?!」

「あんがと…莉奈…」

いつのまにか涙が止まっていた。

「えへへ……………」

「へへ……………」

「……………あ、そっいえばさ」

「ん？」

「好みのタイプ……………何て言おうとしたの？」

「……………」

「……………」

「……………いーわね!!」

「えー!!」

「言わせたかったら捕まえてみーろ!!」

「いったなー!!」

2人はしばらく森でおいかけっこしたんだとさ。

『本当は…………』

お前みたいな奴……………だよ』

E
N
D

（後書き）

や、ヤバイっす…

恋愛小説初めてだから何かきやいいんだよ畜生——！！（泣

クサイ話になったでゴワスが読んで下さるとありがたいザマス（
壊）アドバイスとかもお願いします！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2468d/>

恋 忍者

2010年12月29日22時57分発行